

リマテックホールディングス株式会社

項目	内容
1.企業情報	● 業種：その他（サービス業） ● 事業概要：産業廃棄物処分・収集運搬、再生燃料（RF）製造、設備メンテナンス、環境修復、バイオガス発電、技術開発、太陽光発電、等 ● 事業規模[任意]：持株会社含む6社
2.削減目標案	<Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み> 目標2030年に2017年度比で20%削減 目標2050年に2017年度比で49%削減 取り組みとして工場の電力省エネ化・再エネ化を推進、等 <Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み>

リマテックホールディングス株式会社

項目	内容									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	● Scope 1・2・3の排出量の状況	● SCOPE1 : 2,353 [tCO2] (任意)								
	2017年度のScope別排出量割合 <table border="1"><caption>2017年度のScope別排出量割合</caption><thead><tr><th>Scope</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>Scope1</td><td>24%</td></tr><tr><td>Scope2</td><td>13%</td></tr><tr><td>Scope3 カテゴリ1</td><td>63%</td></tr></tbody></table>	Scope	割合	Scope1	24%	Scope2	13%	Scope3 カテゴリ1	63%	● SCOPE2 : 1,245 [tCO2] (任意)
		Scope	割合							
Scope1	24%									
Scope2	13%									
Scope3 カテゴリ1	63%									
		● SCOPE3 (カテゴリ1のみ) : 6,152 [tCO2] (任意) 目標の対象セクター : なし								

リマテックホールディングス株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	【リスク】 ● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性や、対策の遅れが事業継続性の悪化につながることも懸念される。 ● 国際的な動向、規制の強化等により、さらなる排出量の削減が必要となり、排出量削減のための省エネ投資コストが増加するなどのリスクがある。 【機会】 ● 自社が率先してCO₂削減対策に取り組むことや積極的な情報開示により、さまざまなステークホルダーからの信頼性向上と企業価値向上が期待される。 ● 省エネ活動の促進や安価なエネルギーの導入により、エネルギーコスト削減が実現できれば、生産や調達のコストの削減につながる可能性がある。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO₂削減目標を策定。この目標が2℃目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を含め検討している。 ● 目標を設定することによる、社員の目標レベルの納得性と活動活性化。

リマテックホールディングス株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	● 中小企業版SBT支援を受けて、Scope1・2、Scope3カテゴリ1の2017年度の実績数値を算出。また、SBTの目標水準に整合した目標として、グループ会社も含めた全社会議にて、2017年度比で2030年に20%削減、2050年に49%削減を目標とした。 ● 目標数値や目標年を2030年として設定する意義・必然性について多くの意見があったが、2030年が社会課題解決の国際的なマイルストーンであり、事業活動を通じた社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会への構築の実現へ貢献できるグループを目指す当社にとっての重要性を示し、社内への理解の浸透を図った。
7.今後の課題	● Scope3カテゴリ4,9の精度が高いデータの収集・把握が課題。 ● Scope1+2の目標達成のため、各事業領域における課題抽出、再生可能エネルギーの導入促進を含めた取組みの具体化が必要。 ● Scope3の各カテゴリー削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働取組みが必要。